



日本はもっと
強くなれる
優しくなれる

山口 和之

(やまぐち・かずゆき)

参議院議員・南東北グループGM・理学療法士・介護支援専門員。30数年前、福島県立医科大学病院から南東北脳神経外科病院(現在の当院)のリハビリテーション部門立ち上げに招聘される。以後、予防・治療・リハビリテーション・地域ケアにおいて当院の発展に尽力。議員時代に東日本大震災対応をはじめ、世界に誇れる自立支援介護の推進、循環器病対策基本法の立法など医療介護福祉の政策に貢献する。

山口和之さんの いいきい Interview vol.18 企業探訪

山口 本屋さんと言えば色々な本が並んでいてワクワクしますが、近年は電子出版市場が賑わいを見せ、苦境に立たされています。今回は様々な取り組みで難局に立ち向かう岩瀬書店さんにお邪魔しました。まずは業務内容について吉田頭店長にお聞きします。

山口 郊外型複合書店としては全国最大(1150坪)でした。書籍・雑誌以外にも映像・音楽ソフトの販売やレンタル、ゲームソフト売場も併設しています。2018年には書籍売場を大幅改装し、書籍約28万冊の蔵書の他、地域ブランドの食品や雑貨などを販売するコーナーも設けました。

山口 企業理念について教えてください。

吉田 「書店の使命は、地域文化の向上に寄与することに



吉田 顕氏

富久山店プラスチックオ店長
よしだ あきら

(株)岩瀬書店

郡山市富久山町八山田字大森新田36-1
TEL.024-936-2220
<http://www.iwasebooks.co.jp/>



食雑貨を販売する中央アトリウムスペース

誕生日・記念日休暇を設けて無理なく働ける環境を整備 来店動機を高めるような地域との関係づくりを目指す

ある。企業としての責任と同時に文化の担い手としての責任を持っていることを忘れてはならない」です。

山口 おすすめの本やサービスはありますか。

吉田 「書棚はスタッフの手が入ることで初めて形を成す」を念頭に、黒板に書きメッセージを入れ、スタッフが皆さんに読んで欲しいと感じた本がずらりと並び「おすすめ台」は、ぜひ一度ご覧いただきたいコーナーです。中央アトリウムスペースでは地域ブランドの食雑貨を扱うだけでなく、全国の珍しい食雑貨も取り揃えています。

山口 電子書籍の台頭や大手雑誌の休刊などについては。

吉田 2024年上半年の市況では紙の書籍・雑誌の販売額は5205億円(2015年比で2711億円減)、電子全体は2679億円(同年比2038億円増)で年々電



書店の未来について語り合った山口さんと吉田店長

子の構成比が上がっています。紙雑誌は売上減少が大きく、2015年比で1890億円減となっています。電子雑誌は横ばいか減少傾向です。インターネットでの情報取得が増え、情報誌としての役割が大きかった雑誌は休刊が相次いでいます。

山口 人材確保や社員教育について教えてください。

吉田 定着率は高く、経験豊富なスタッフが多数は強みです。半面、若い世代の登

用や世代交代などが課題となってきました。

山口 働き方改革や健康経営については進んでいますか。

吉田 デジタル化が他業種と比べて遅れをとっている感はありませんが、取次や出版社と連携したデジタル化は着実に進んでおり、マンパワーの軽減や業務効率化に繋がっています。結果、時間外勤務などは大幅に抑制されるようになりました。有給休暇の取得を従業員に推奨するとともに誕生日休暇やアニバーサリー休暇なども取得できます。勤務日の連続回数を考慮したシフト運用や希望休を募るなどして、スタッフが無理なく働ける環境を整えています。

山口 今後の夢やビジョンなどを聞かせてください。

吉田 視点を変えればエンタテイメントとしての物語や自分に役立つ読み物の需要は、まだまだ掘り起こせると思います。書店への来店動機を高めるような地域との関係づくり、これまで書店に足を運んだことがないような方に向けた店舗運営が重要になります。

山口 インターネット全盛の時代の中で書店が生き残るのは大変ですが、アイデア次第で対抗できるはず。今後の新展開に期待しています!